

長野県

子どもと子育て家庭の生活実態調査

調査結果の概要

令和5年2月

長野県県民文化部こども若者局

☆子どもと子育て家庭の生活実態調査

調査の概要

- 1 調査対象 小1、小5、中2、16・17歳（高2相当）の子どもとその保護者 各3,000世帯（ただし、小1は保護者のみ）
- 2 調査方法 住民基本台帳から対象世帯を無作為抽出し、郵送により調査票を配布・回収
- 3 調査期間 令和4年6月28日から7月25日まで
- 4 有効回答 子ども 1,955件（21.7%）、保護者 3,127件（26.1%）

※ 前回調査はH29年度に実施しており、調査対象や調査方法は前回同様に実施している。
（前回の有効回答数：子ども 2,366件（26.3%）保護者 3,589件（29.9%））

調査の特徴

次の3要素から調査対象の家庭を「困窮家庭」「周辺家庭」「一般家庭」に分類※して分析した県の調査

※東京都立大学の阿部彩教授による分類

①世帯の可処分所得（右表の所得）

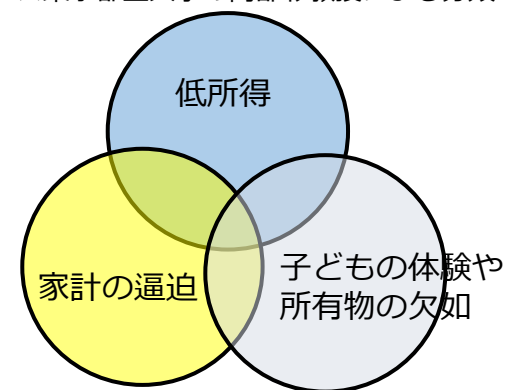
世帯人員	世帯可処分所得
2人	175万円未満
3人	210万円未満
4人	245万円未満
5人	275万円未満
6人	300万円未満

②家計の状況

- ・ 経済的理由による公共料金等の滞納
- ・ 食料・衣類を買えなかった経験が1つ以上

③子どもの経験・所有物

15項目中、経済的理由で欠如する項目が3つ以上（海水浴、家族旅行、習い事、学習塾・通信教育年齢に合った本、自宅で勉強できる場所など）



困窮家庭	2つ以上の要素に該当
周辺家庭	いずれか1つの要素に該当
一般家庭	該当する要素なし

☆世帯状況

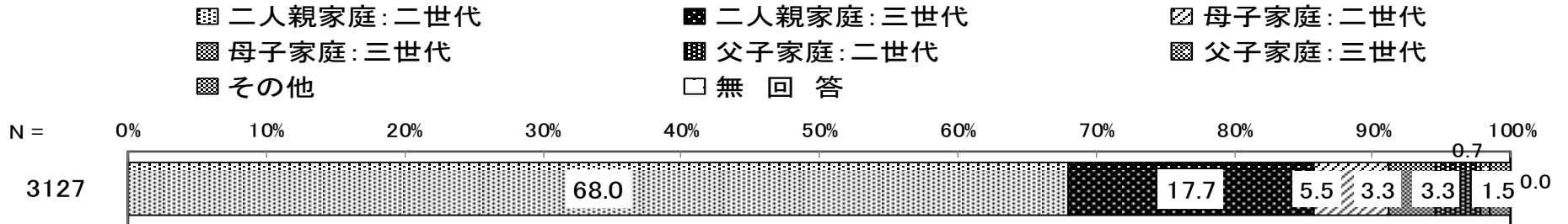


しあわせ信州

[世帯状況]

- 世帯構成では、「二人親二世代」が68.0%と多く、「二人親三世代」が17.7%である。母子または父子のひとり親の世帯は二世代・三世代世帯をあわせて12.8%である。

H問6 世帯構成[%]

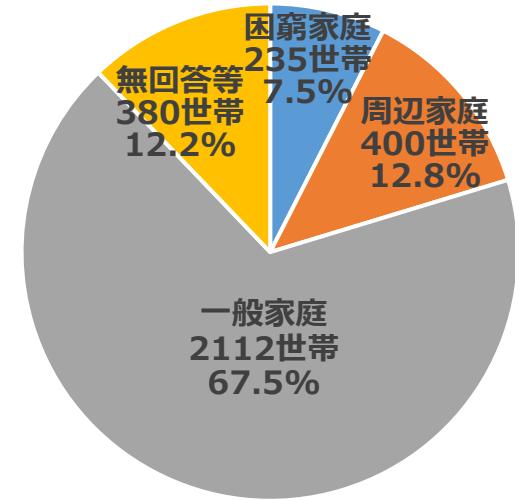


[生活困難家庭の割合]

- 全体では、「一般家庭」が67.5%を占めており、「周辺家庭」が12.8%、「**困窮家庭**」が**7.5%**である。前回と比べて、「一般家庭」の割合が多くなり、生活困難家庭（「困難家庭」と「周辺家庭」の計）の割合が少なくなっている。

困窮家庭	7.5%	(235世帯 / 3,127世帯)
周辺家庭	12.8%	(400世帯 / 3,127世帯)
一般家庭	67.5%	(2,112世帯 / 3,127世帯)

(参考) 前回調査	困窮家庭	9.3%	(334世帯 / 3,589世帯)
	周辺家庭	15.2%	(546世帯 / 3,589世帯)
	一般家庭	59.9%	(2,149世帯 / 3,589世帯)

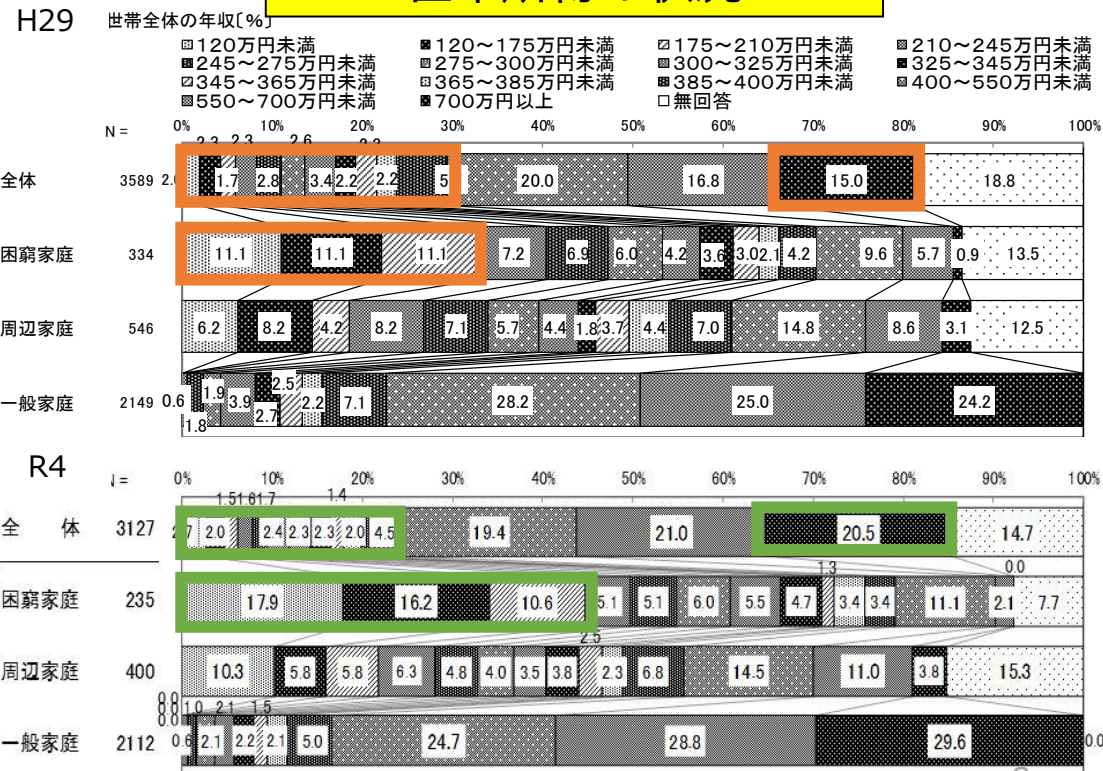


☆暮らしの状況

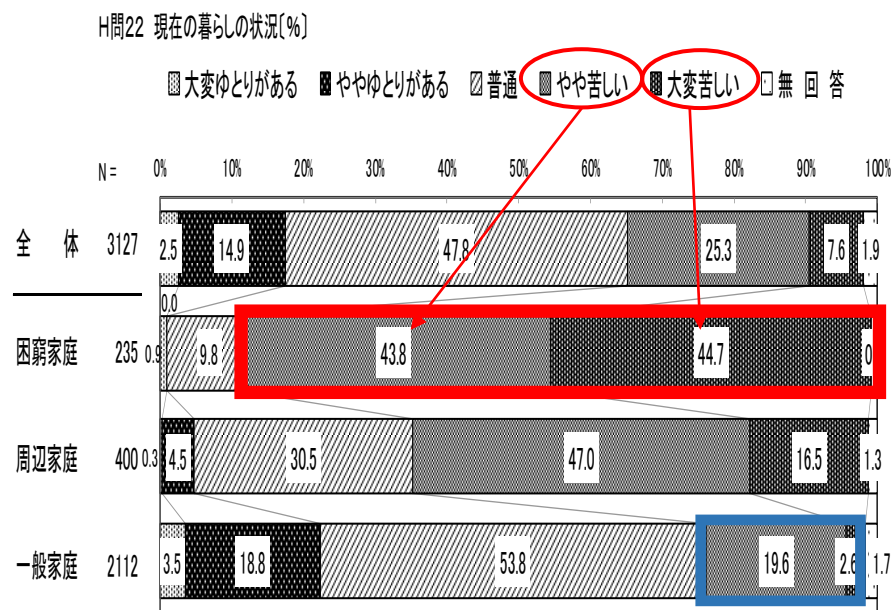
[現在の暮らしの状況について]

- 世帯所得は**前回に比べて、400万円未満が減り、700万円以上が増えている。**一方で、**困窮家庭は210万円未満の割合が前回に比べて増えており、困窮家庭と一般家庭の差が拡大**している。
 - ・ 400万円未満の割合（全体） **今回：24.4%** < **前回：29.5%**
 - ・ 700万円以上の割合（全体） **今回：20.5%** > **前回：15.0%**
 - ・ 210万円未満の割合（困窮家庭） **今回：44.7%** > **前回：33.3%**
- 『苦しい』※と回答した割合は、**困窮家庭で8割を超えている。** ※「やや苦しい」、「大変苦しい」の合計
 - ・ 現在の暮らしの状況が『苦しい』 **困窮家庭：88.5%** > **一般家庭：22.2%**

世帯所得の状況



現在の暮らし向き





☆家計の状況

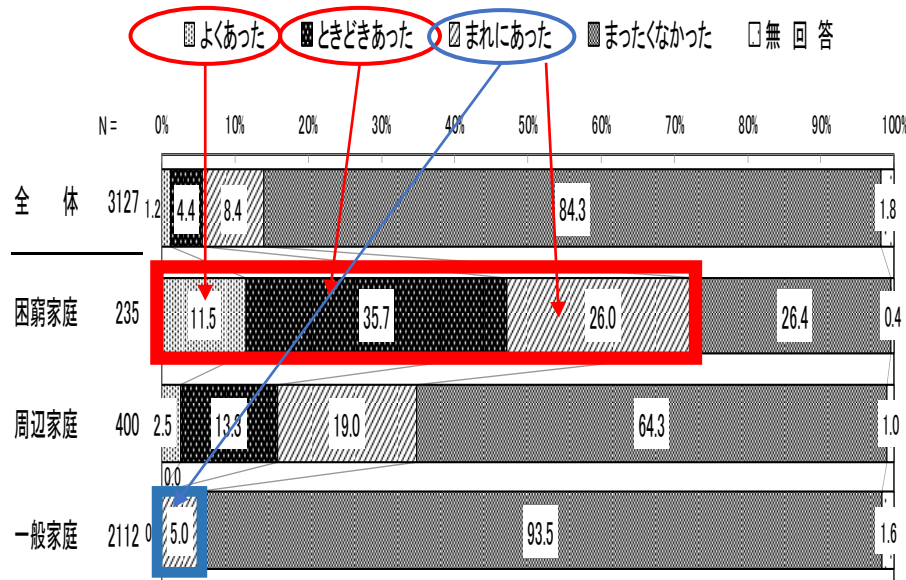
[お金が足りなくて食料・衣料を買えないこと]

○ 過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要なものが買えなかったことが「あった」※1という回答は、**困窮家庭で7割を超えている。** ※1「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」の合計

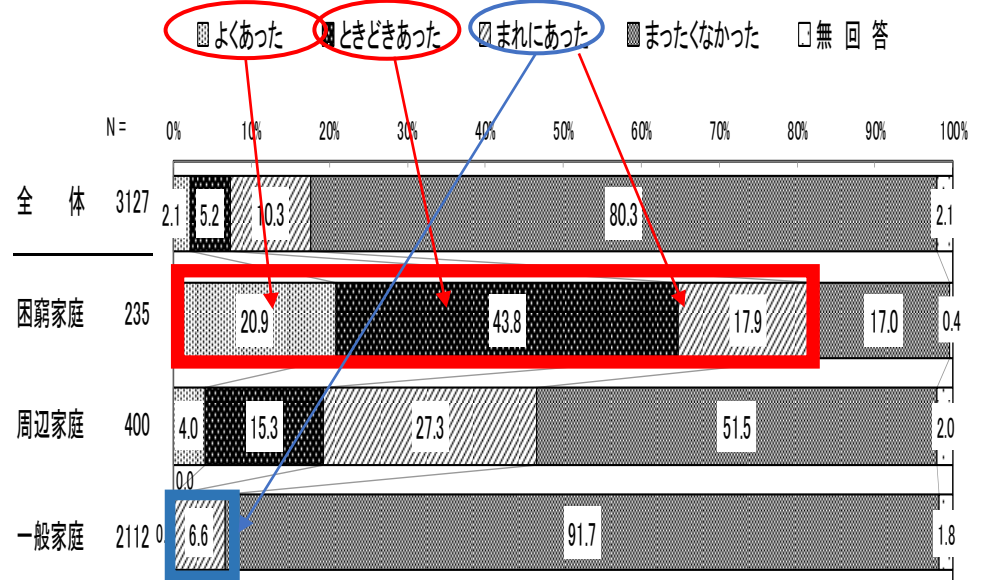
- ・ 食料を買えないことがあった **困窮家庭：73.2%** > **一般家庭：5.0%** ※2
- ・ 衣類を買えないことがあった **困窮家庭：82.6%** > **一般家庭：6.6%** ※2

※2一般家庭では「よくあった」、「ときどきあった」の回答は0。

H問23 お金が足りなくて食料を買えないこと[%]



H問24 お金が足りなくて衣類を買えないこと[%]





[経済的な理由のために世帯にないもの]

- 家電製品、子ども用品など**15項目**について経済的理由のために世帯にないものを尋ねたところ、一般家庭で「あてはまるものはない」が70.0%だったのに対し、困窮家庭では「急な出費のための貯金（5万円以上）」が51.1%など、**多数の項目で世帯にないものがあると回答されている。**

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	あてはまるものはない (62.0%)	無回答 (13.4%)	新聞の定期購読 (インターネット含む) (12.9%)	急な出費のための貯金（5万円以上） (9.1%)	インターネットにつながるパソコン (5.7%)
困窮家庭	急な出費のための貯金（5万円以上） (51.1%)	新聞の定期購読 (インターネット含む) (38.3%)	インターネットにつながるパソコン (28.5%)	子どもが自宅で宿題をすることができる場所 (23.8%)	子どもの年齢に合った本 (23.4%)
周辺家庭	あてはまるものはない (40.8%)	急な出費のための貯金（5万円以上） (22.8%)	新聞の定期購読 (インターネット含む) (20.8%)	無回答 (11.0%)	インターネットにつながるパソコン (9.0%)
一般家庭	あてはまるものはない (70.0%)	無回答 (14.8%)	新聞の定期購読 (インターネット含む) (9.3%)	インターネットにつながるパソコン (3.0%)	急な出費のための貯金（5万円以上） (2.9%)



[子どもに体験させていること]

○ 新型コロナウイルス感染症拡大以前に、子どもに博物館に行くなどの体験をさせているかという質問では、**困窮家庭では「金銭的な理由でさせていない」という回答が多くなっている。**

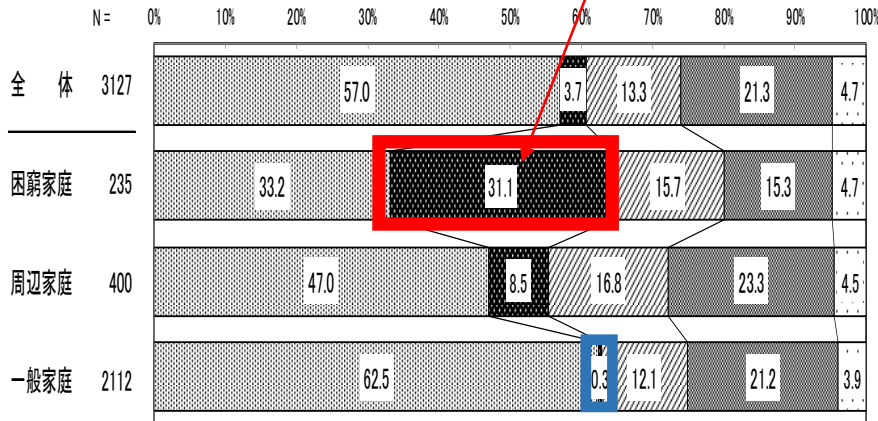
「金銭的理由で体験させていない割合」

- ・ 博物館・科学館・美術館などに行く
- ・ 映画に行く

困窮家庭：31.1% > **一般家庭：0.3%**
困窮家庭：22.1% > **一般家庭：0.6%**

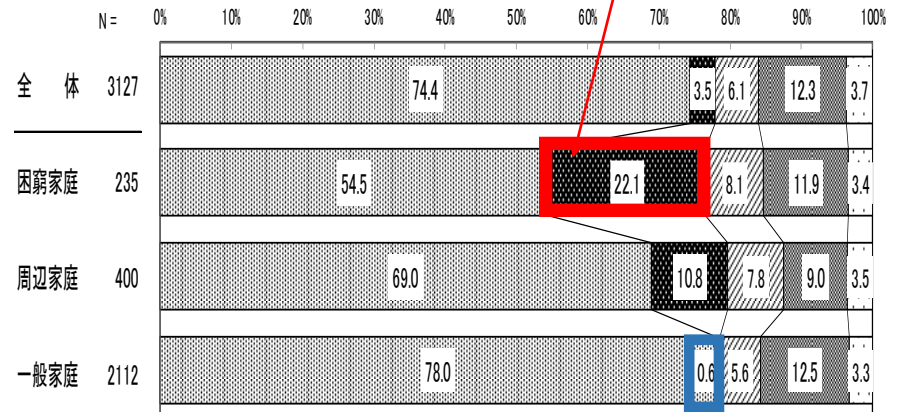
H20感染拡大前のこと ①博物館等に行く[%]

している
 時間の制限でしていない
 無回答
 金銭的な理由でしていない
 その他の理由(家族の方針や健康等)でしていない



H20感染拡大前のこと ③映画に行く[%]

している
 時間の制限でしていない
 無回答
 金銭的な理由でしていない
 その他の理由(家族の方針や健康等)でしていない

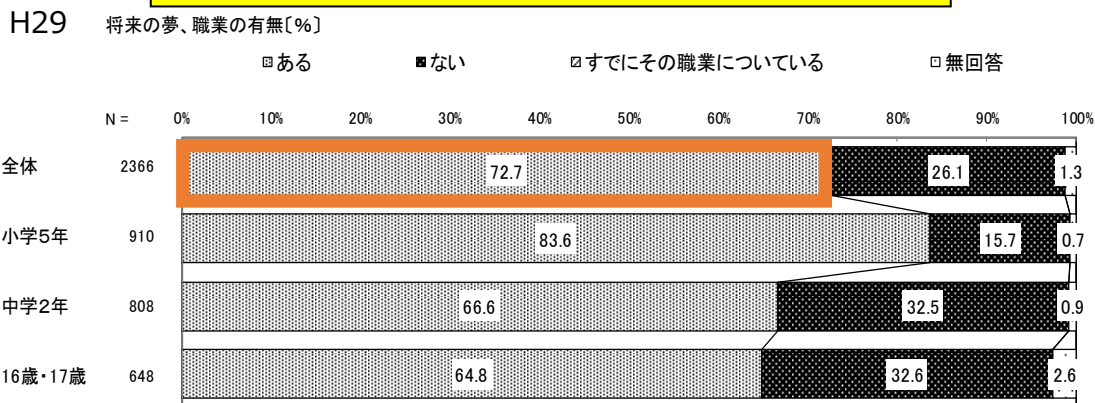


☆ 将来の夢

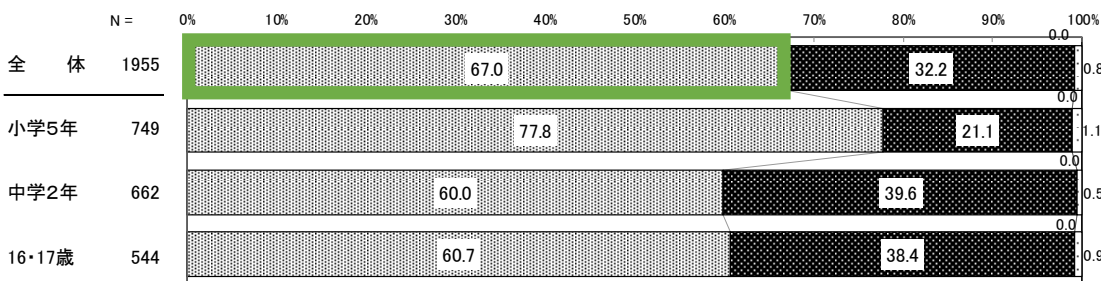
[将来の夢・なりたい職業]

- 将来の夢やなりたい職業が「ある」と回答した割合は、**前回と比べて回答割合が少ない。**
学年別では学年が上がるほど「ある」と回答した割合は少なくなっている。
 - ・ 将来の夢・なりたい職業が「ある」 **今回：67.0%** < **前回：72.7%**
 - ・ 将来の夢・なりたい職業が「ある」 **小5：77.8%** **中2：60.0%** **16・17：60.7%**
- 夢がない理由として、どの学年でも**「具体的に何も思い浮かばない」という回答が最も多い。**

将来の夢の有無

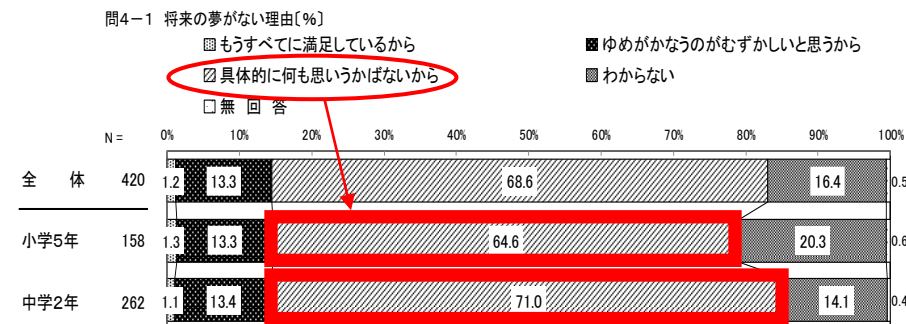


R4 問4 将来の夢、職業の有無[%]

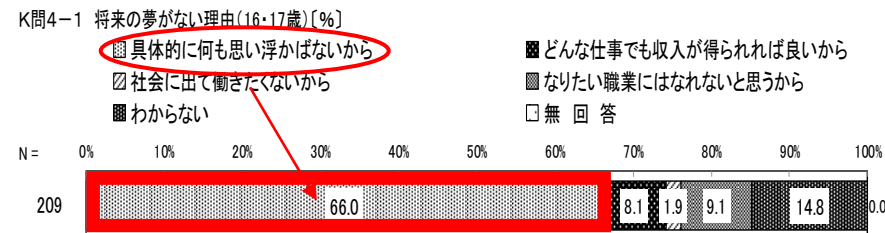


将来の夢がない理由

<小5・中2>



<16・17>



☆子どもの貧困の現状

①：子どもの生活習慣に影響を与えている

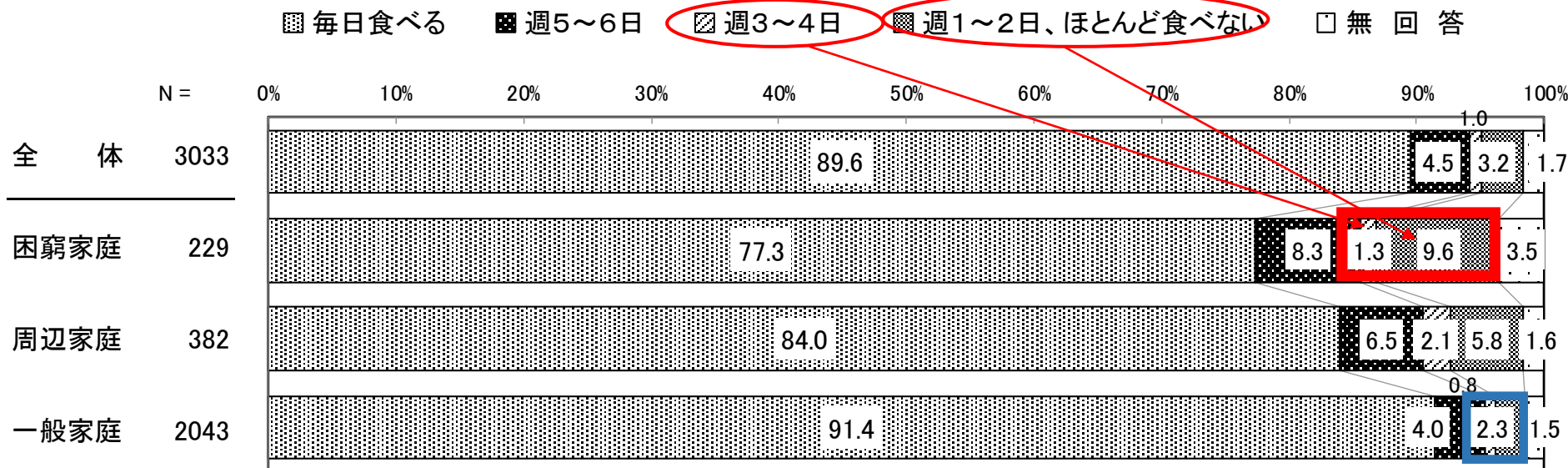
【食生活】

○ 「週にどのくらい朝食を食べるか」という質問では、**困窮家庭は10%以上が食べない日があると回答している。**

・ 平日に朝食を食べない日がある※ **困窮家庭：10.9%** > **一般家庭：3.1%**

※「週3～4日」と「週に1～2日、ほとんど食べない」の合計

問16食習慣 ①朝食[%]

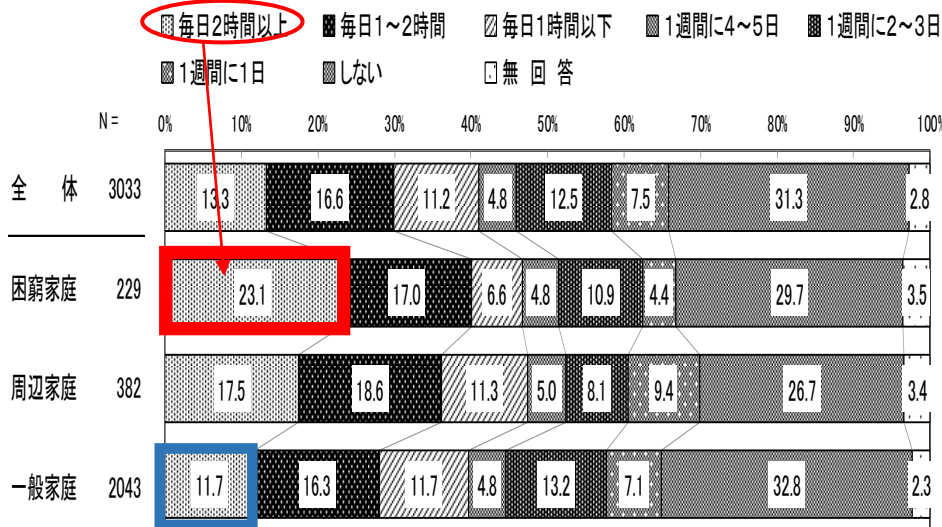




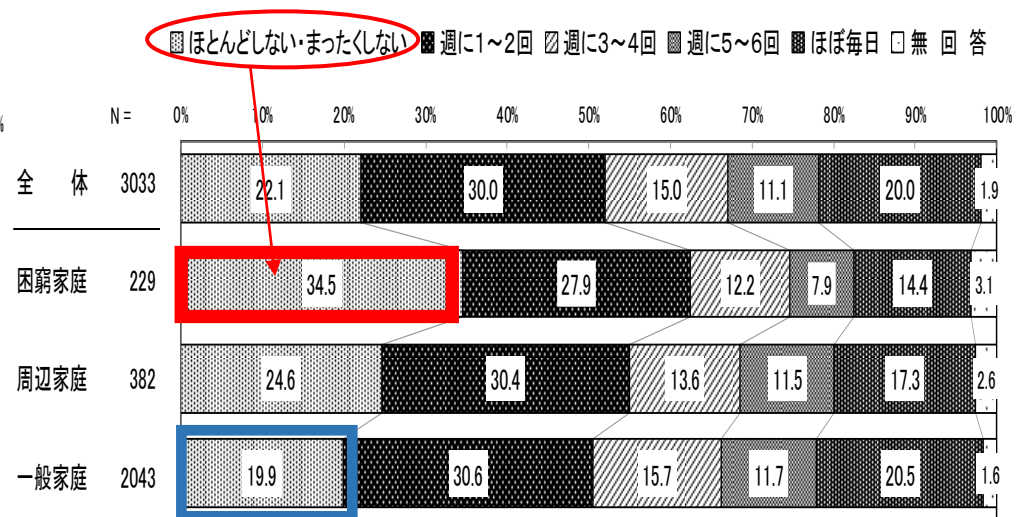
【放課後等の過ごし方】

- 「ゲーム機で遊ぶ」「テレビ・インターネットを見る」頻度について尋ねたところ、困窮家庭ほど長時間の回答が多くなっている。
 - ・ 毎日2時間以上ゲーム機で遊ぶ **困窮家庭：23.1%** > 一般家庭：11.7%
 - ・ 毎日2時間以上テレビやインターネットをみる **困窮家庭：53.3%** > 一般家庭：34.9%
- 「30分以上のからだを動かす遊びや習い事」の頻度は、困窮家庭では「ほとんどしない・全くしない」が34.5%と、一般家庭に比べて多くなっている。
- **困窮家庭では、放課後の過ごし方の選択肢が限られていることがうかがえる。**

問13 普段の活動 ③ゲーム機で遊ぶ(%)



問14 30分以上の運動頻度(%)



☆子どもの貧困の現状

②：子どもの健康面に影響を与えている

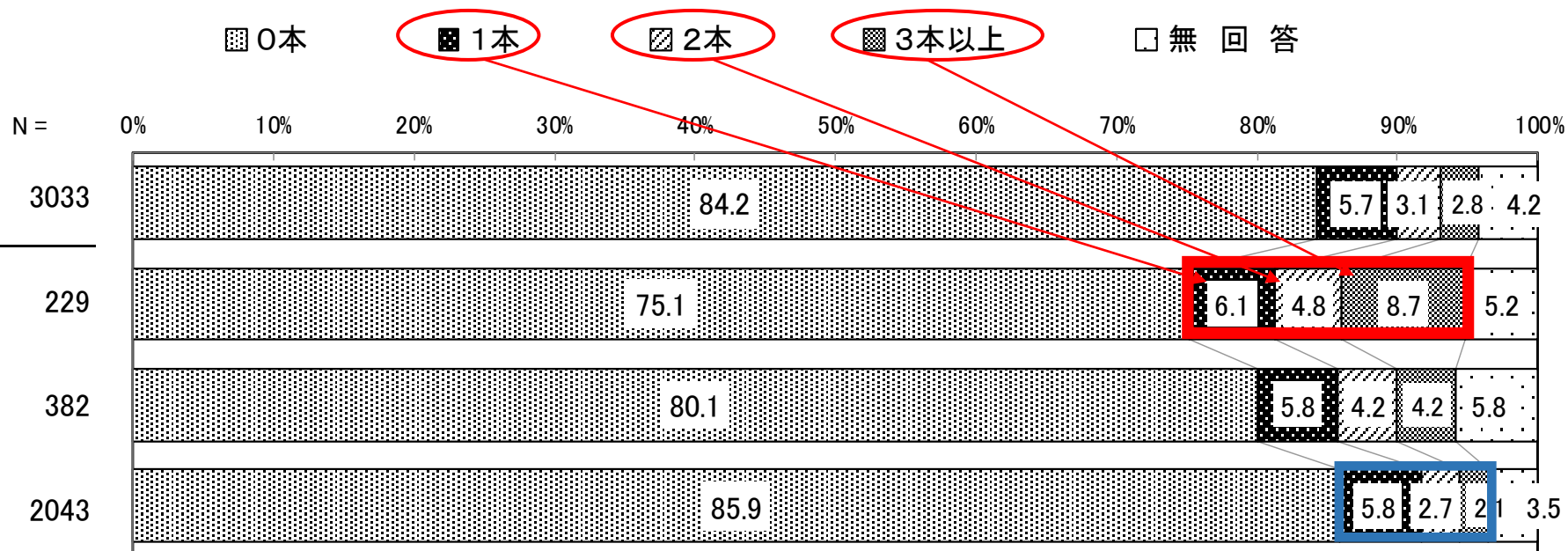
[子どもの虫歯の本数]

○ 『1本以上』※と回答した割合は、**困窮家庭では19.6%とほぼ2割を占めている。**

※「1本」、「2本」、「3本以上」の合計

・ 虫歯の本数が1本以上 **困窮家庭：19.6%** > **一般家庭：10.6%**

問19 虫歯の有無[%]



[子どもの健康状態]

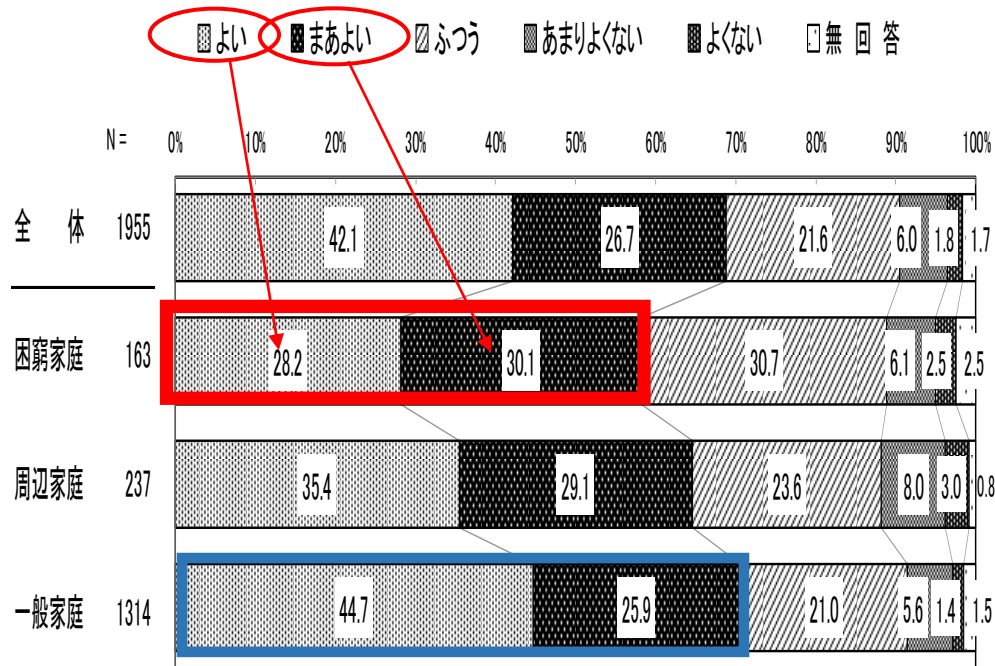
- 子どもが感じている自分の健康状態は、全体では「よい」と「まあよい」が68.8%だが、困窮家庭は58.3%と少ない。

・ **よい**※ **困窮家庭 : 58.3%** > **一般家庭 : 70.6%** ※「よい」と「まあよい」の合計

- 保護者から見た子どもの健康状態は、子ども自身の回答に比べて「よい」が多い。

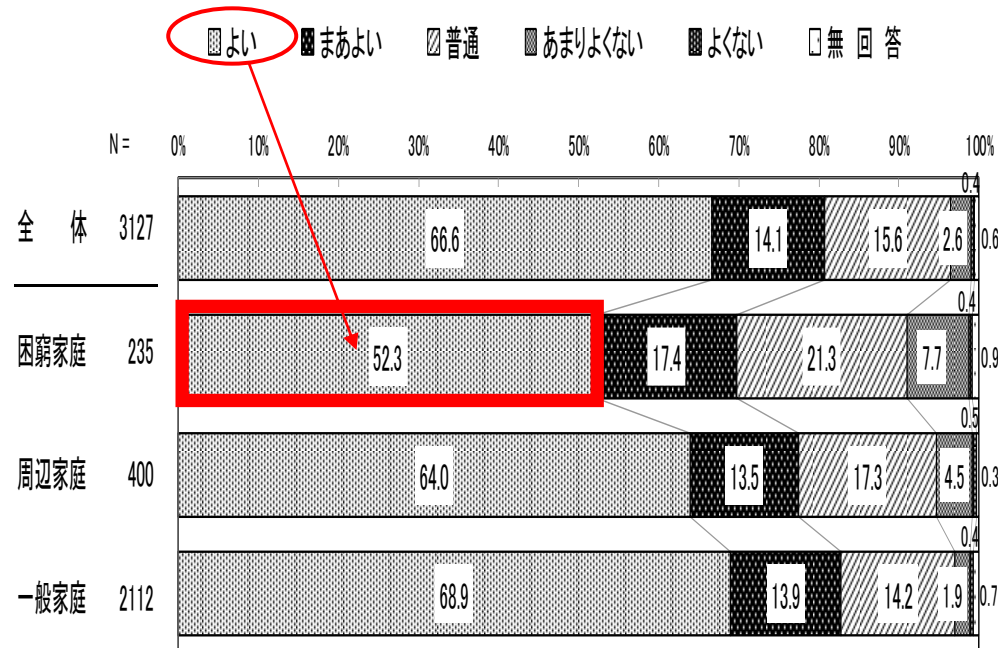
子ども自身が感じる自分の健康状態

問18 健康状態(%)



保護者から見た子どもの健康状態

H問15健康状態 ②子ども(%)



☆子どもの貧困の現状



しあわせ信州

③：子どもの学習面に影響を与えている

【授業以外の勉強時間】

- **困窮家庭及び周辺家庭では「全くしない」「30分より少ない」の合計が30%を超えている。困窮家庭では33.1%と約1/3を占めており、学習習慣が身に付いていないおそれのある子どもの割合が高い。**

問26 普段の勉強時間 ①学校がある日〔%〕

■ まったくしない

■ 30分より少ない

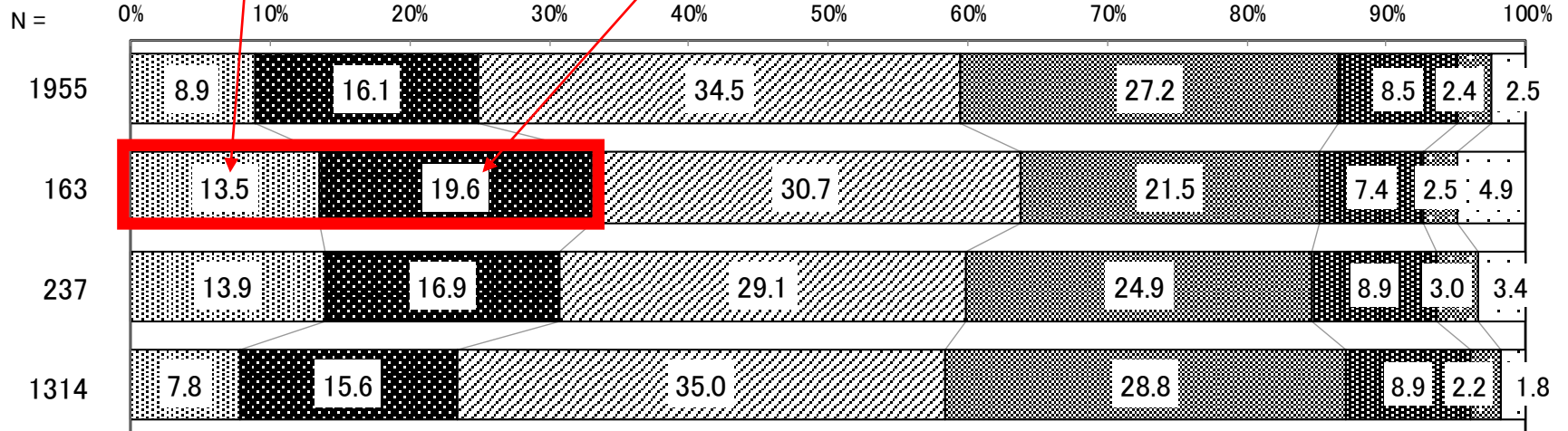
■ 30分以上、1時間より少ない

■ 1時間以上、2時間より少ない

■ 2時間以上、3時間より少ない

■ 3時間以上

□ 無回答

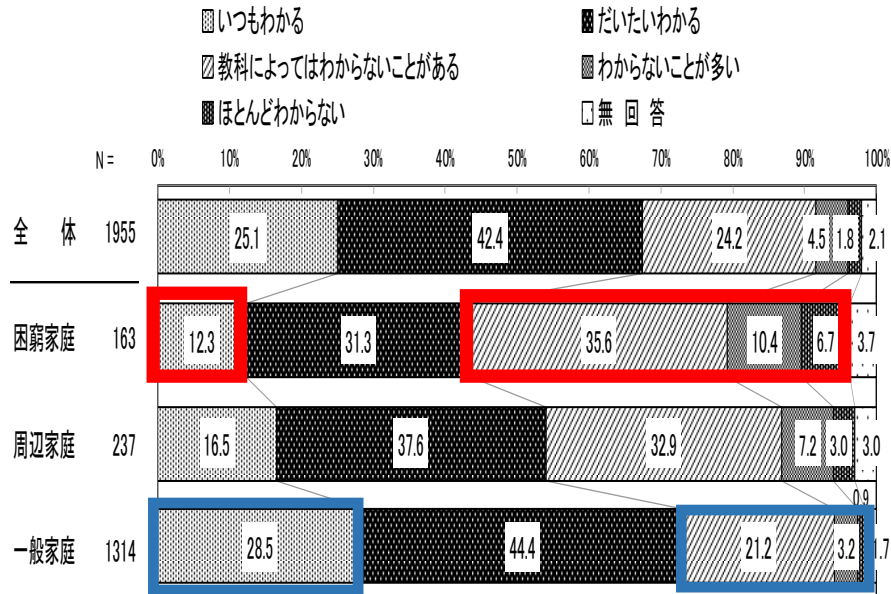




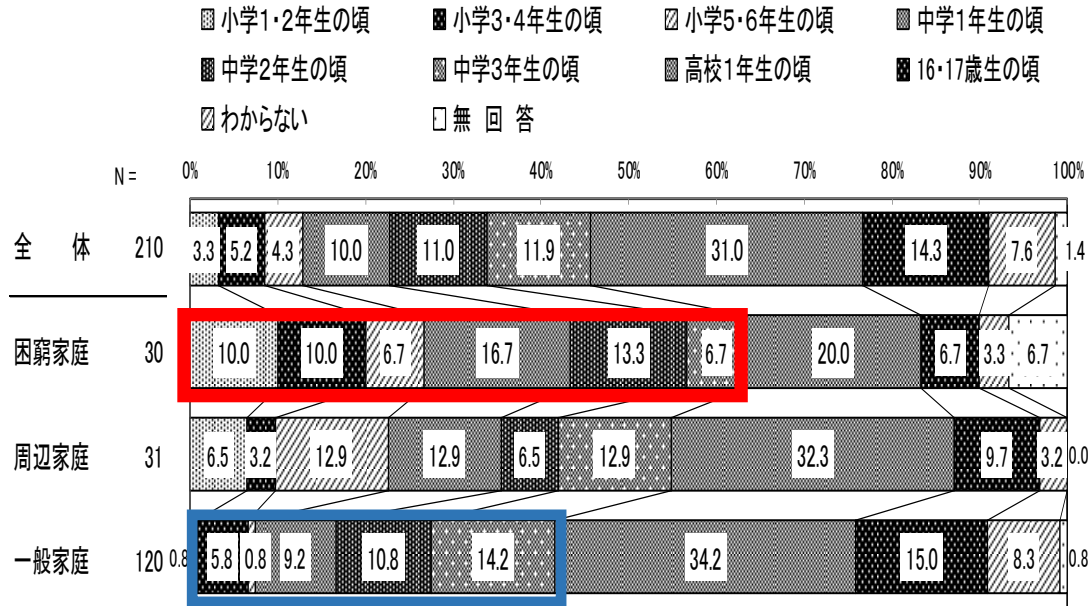
【授業の把握度・授業が分からなくなった時期】

- 授業の把握度を尋ねたところ、困窮家庭では「いつもわかる」が12.3%と少なく、「わからない」※1 が52.7%と多い。
 ※1「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」の合計
 - ・いつもわかる **困窮家庭：12.3%** < **一般家庭：28.5%**
 - ・わからない **困窮家庭：52.7%** > **一般家庭：25.3%**
- 「授業がわからなくなった時期」（16・17歳）は、困窮家庭では一般家庭に比べて「高校入学前」※2の回答が多い。
 ※2「小学1・2年生の頃」「小学3・4年生の頃」「小学5・6年生の頃」「中学1年生の頃」「中学2年生の頃」「中学3年生の頃」の合計

問22 授業の理解度[%]



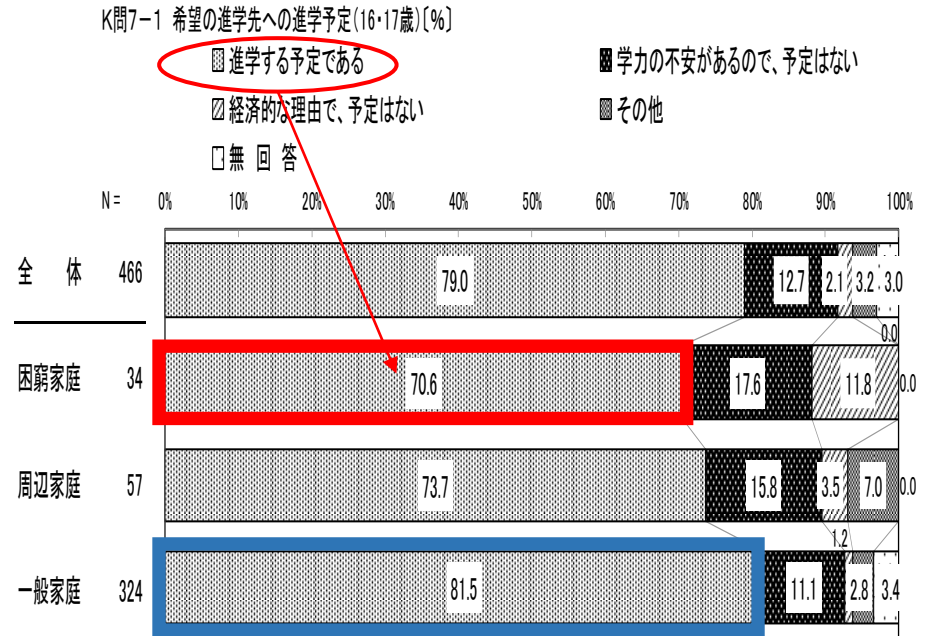
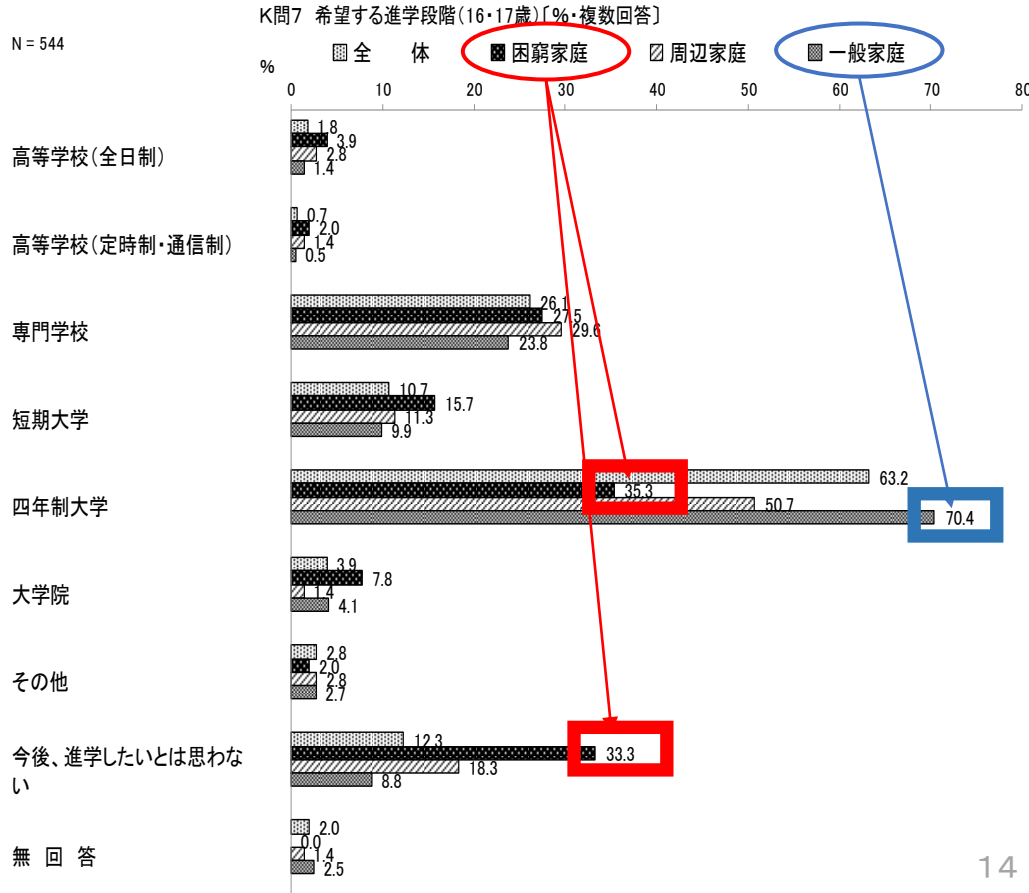
K問28-1 授業がわからなくなった時期(16・17歳)[%]





[16・17歳の希望の進学先]

- 全体では「四年制大学」が63.2%と多いが、**困窮家庭は35.3%と少ない。**
 - ・ **四年制大学 困窮家庭：35.3% < 一般家庭：70.4%**
- 困窮家庭では、「今後、進学したいとは思わない」との回答が**33.3%**と、他の区分に比べて多く、**貧困の連鎖が懸念される傾向にある。**また、前回と比べて「経済的な理由で、予定はない」と回答した割合が多くなっており、経済的な理由で進学を断念する子どもが増えている。
 - ・ **「経済的な理由で、予定はない」 今回：11.8% > 前回：4.8%**



困窮家庭では、高等教育機関（大学等）への進学希望が一般家庭に比べて低いとともに、進学希望が実現できると考えている割合も低い。

【希望進学先への進学予定】

困窮家庭 70.6% < 一般家庭 81.5%

☆子どもの貧困の現状

④：子どもの心理面に影響を与えている

[自己肯定感]

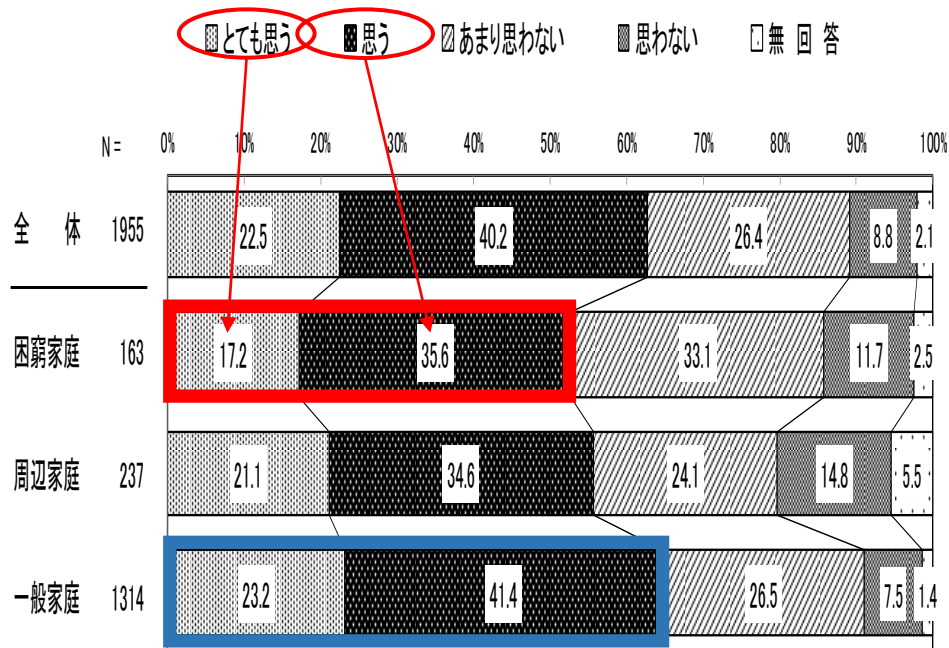
○ 「自分は価値のある人間だと思うか」などの質問に対し、**困窮家庭では「思う」※の回答が少なく、自己肯定感の低さがうかがえる。** ※「とても思う」と「思う」の合計

- ・ 自分は価値のある人間だと思う **困窮家庭：52.8%** < 一般家庭：64.6%
- ・ 自分のことが好きだ **困窮家庭：47.3%** < 一般家庭：59.6%

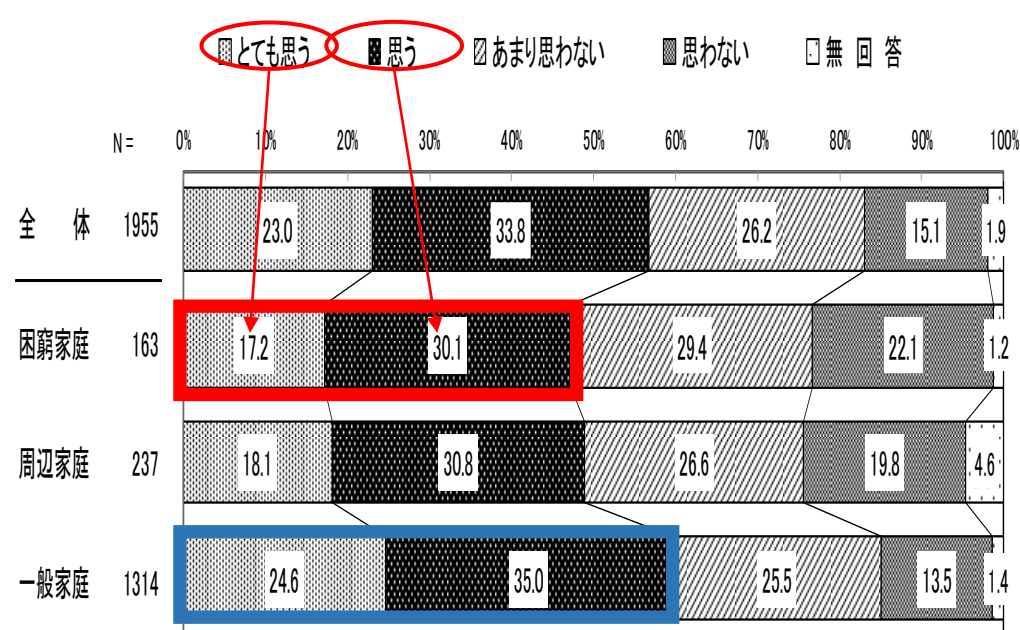
自分は価値のある人間だと思う

自分のことが好きだ

問28自身の気持ち ②自分は価値のある人間[%]



問28自身の気持ち ⑥自分のことが好きだ[%]



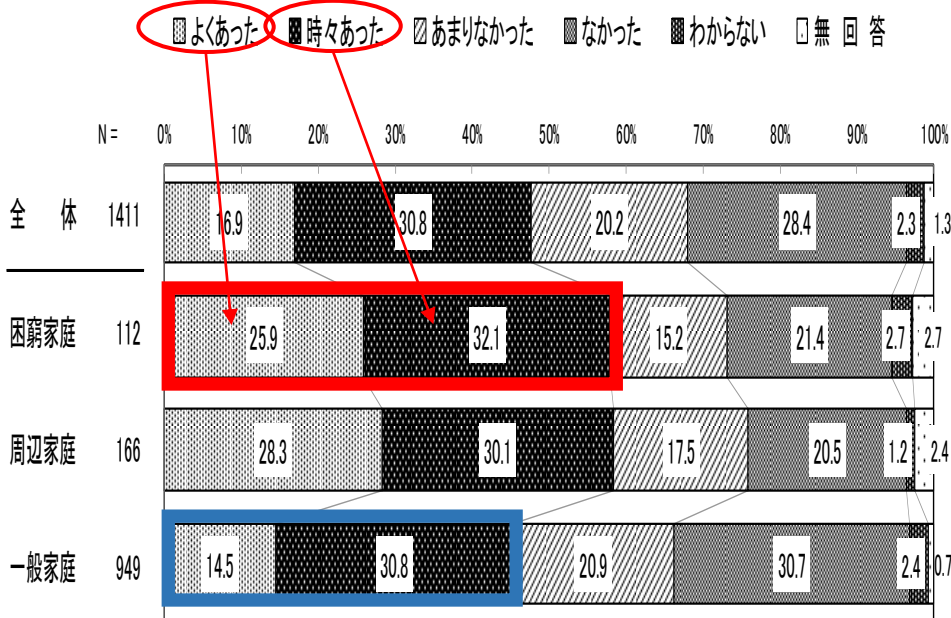


【学校に行きたくないと思ったこと・学校をやめたくなるほど悩んだこと】

- 小学5年・中学2年では、学校に行きたくないと思ったことが「あった」※が**一般家庭では45.3%**だが、**困窮家庭は58.0%と多くなっている。**
※「よくあった」と「時々あった」の合計
- 16・17歳では、学校をやめたくなるほど「悩んだことがある」が**一般家庭では35.9%**であるのに対し、**周辺家庭は42.3%、困窮家庭は64.7%**に上っている。
- 「学校に行きたくないと思ったこと」「学校をやめたくなるほど悩んだこと」が「ある(あった)」と回答した割合は、ともに、前回と比べて多くなっている。
 - ・学校に行きたくないと思ったことがある **今回：47.7% > 前回：35.1%**
 - ・学校をやめたくなるほど悩んだことがある **今回：39.7% > 前回：31.9%**

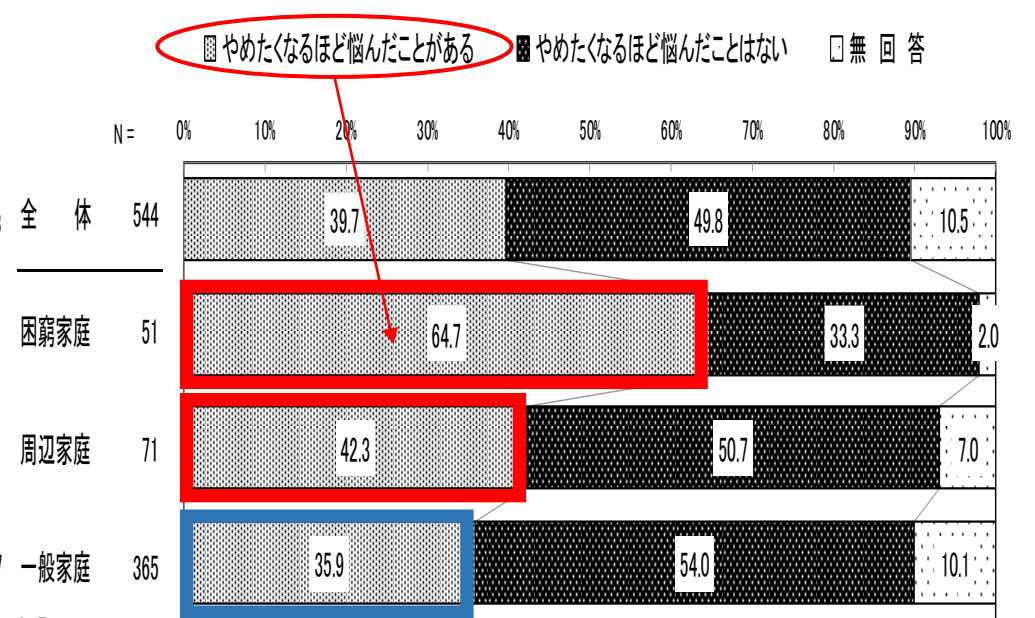
学校に行きたくないと思ったこと (小5・中2)

問29これまでのこと ①学校に行きたくないと思った〔%〕



学校をやめたくなるほど悩んだこと (16・17歳)

K問34 学校をやめたくなるほど悩んだこと(16・17歳)〔%〕



☆子どもの貧困の現状

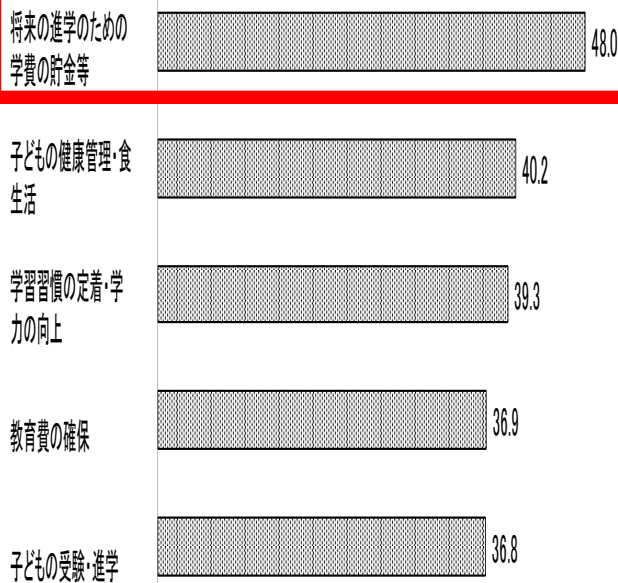
⑤：保護者の悩みは「教育費の負担」が大きい

[子育てで大変だと思うこと]

- 「将来の進学のための学費の貯金等」が48.0%と最も多く、「子どもの健康管理・食生活」「学習習慣の定着・学力の向上」がそれぞれ40%前後が多い。
- 大変だと思うことは、子どもの学年によって異なる。

保護者が子育てで大変だと思うこと（上位5つ） %

N=3127
% 0 10 20 30 40 50



	1位	2位	3位
小1	将来の進学のための学費の貯金等 (47.7%)	子どもの健康管理・食生活 (43.6%)	仕事と子育ての両立 (41.0%)
小5	将来の進学のための学費の貯金等 (47.4%)	学習習慣の定着・学力の向上 (41.6%)	子どもの健康管理・食生活 (40.3%)
中2	子どもの受験・進学 (49.0%)	学習習慣の定着・学力の向上 (48.1%)	将来の進学のための学費の貯金等 (46.8%)
16～17歳	子どもの受験・進学 (54.6%)	将来の進学のための学費の貯金等 (51.0%)	子どもの将来の就職 (42.8%)

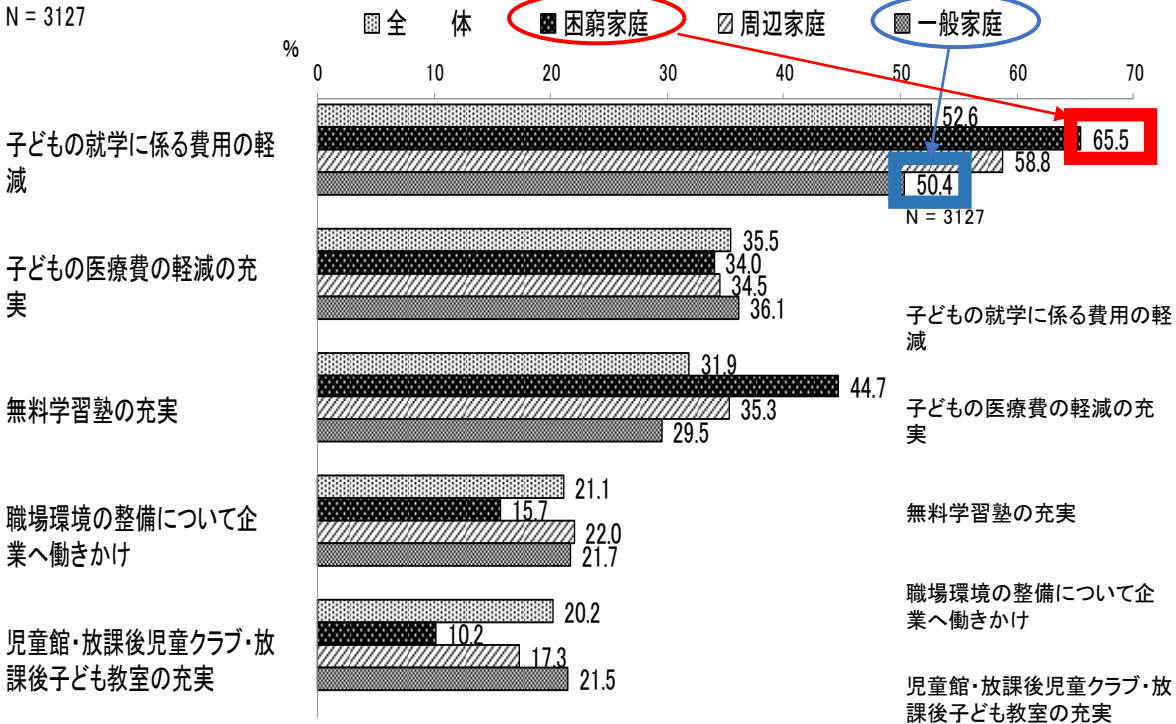


[希望する子育て支援サービス]

- 「子どもの就学に係る費用の軽減」、「子どもの医療費の軽減の充実」が上位を占める。
- 前回と比べて「子どもの就学に係る費用の軽減」「無料学習塾の充実」を回答した割合が多くなっている。
 - ・子どもの就学に係る費用の軽減 **今回：52.6%** > **前回：42.7%**
 - ・無料学習塾の充実 **今回：31.9%** > **前回：24.1%**
- **困窮家庭では、「子どもの就学に係る費用の軽減」が一般家庭より10ポイント以上高い。**

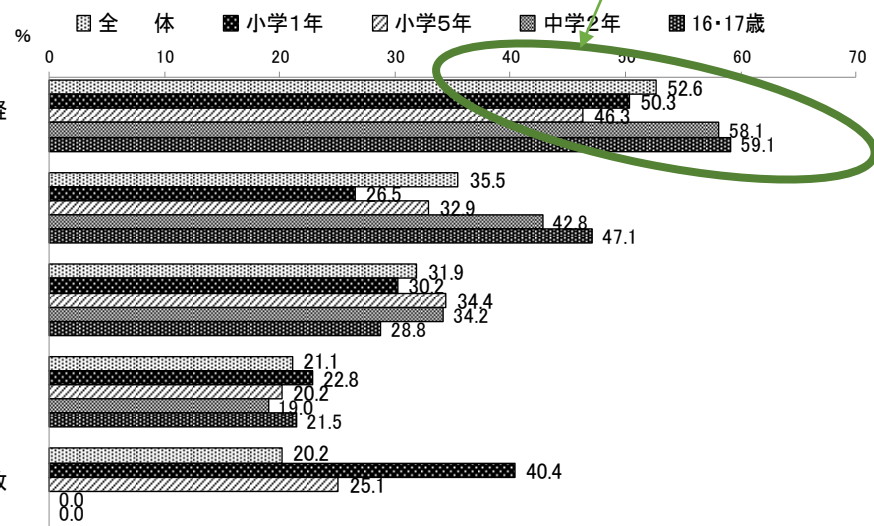
生活困窮度別

希望する子育て支援サービス [%・複数回答] (上位5位)



学年によって異なるニーズ
 ○中2、16・17歳で就学費用の軽減のニーズが高い。
 ○無料学習塾のニーズは小5が最も高い。

学年別



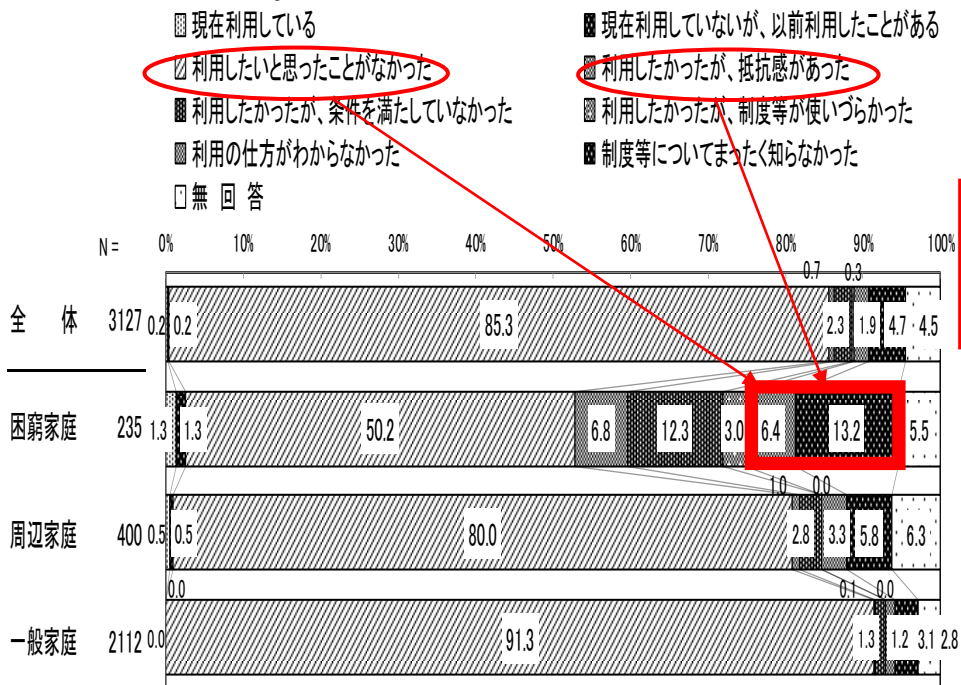
☆子どもの貧困の現状

⑥：貧困対策が支援に必要な家庭に届いているか

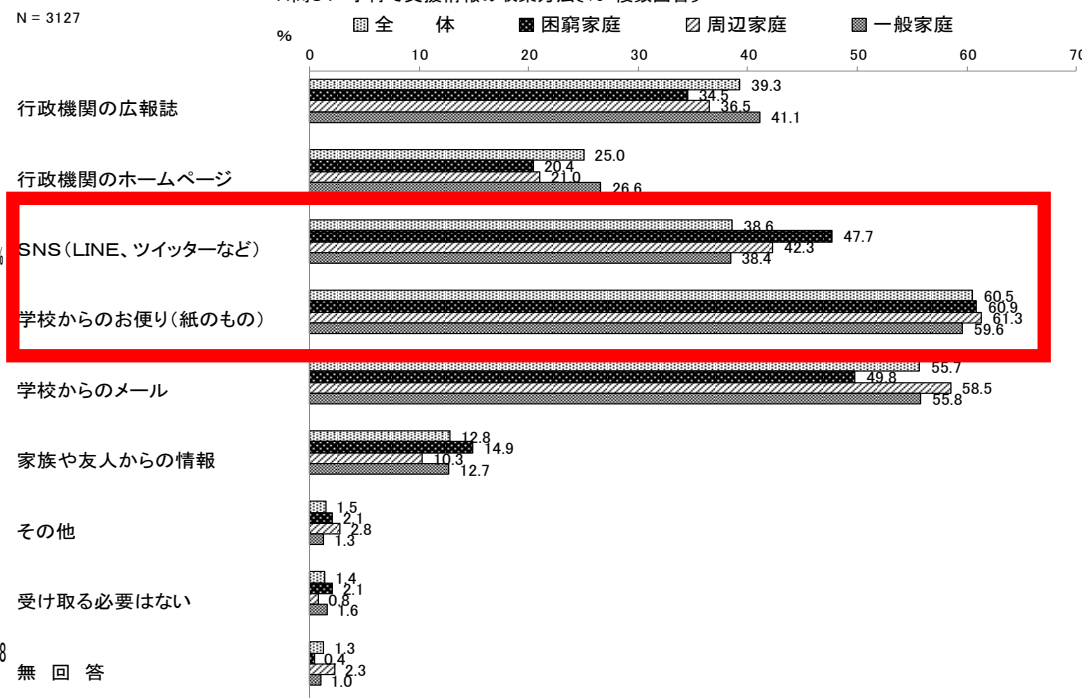
[支援施策の利用状況及び施策情報の入手先（保護者）]

- **生活保護制度についての利用を尋ねたところ、困窮家庭の19.6%が「利用の仕方がわからなかった」、「制度等について全く知らなかった」と回答**
- 子育て家庭にとって、子どもに関する施策の情報入手先は、学校からのお便りやメールが多い。また、前回と比べて、「学校からのメール」や「SNS（LINE、Twitterなど）」が多くなっており、**情報の収集方法が多様化**している。

H問34 支援制度利用歴 ②生活保護(%)



H問31 子育て支援情報の収集方法[%・複数回答]





[相談窓口の利用状況（保護者）]

○ 公的な相談窓口の利用状況を尋ねたところ、**困窮家庭では「相談したかったが、抵抗感があった」「相談する窓口や方法がわからなかった」**の回答が一般家庭に比べて多くなっている。

「相談したかったが抵抗感があった」

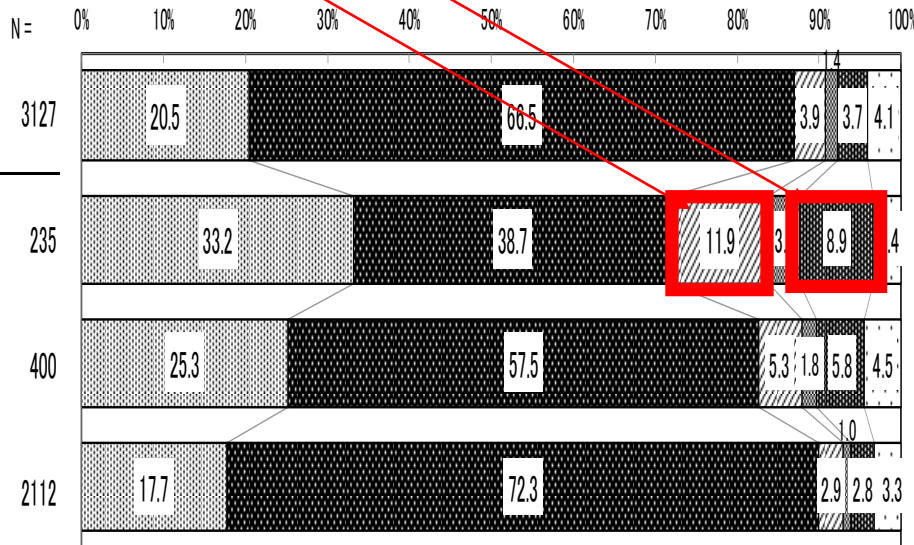
- ・ 市役所・町村役場の窓口 **困窮家庭：11.9%** > 一般家庭：2.9%
- ・ 民生委員・児童委員 **困窮家庭：9.4%** > 一般家庭：2.1%

「相談する窓口や方法がわからなかった」

- ・ 市役所・町村役場の窓口 **困窮家庭：8.9%** > 一般家庭：2.8%
- ・ 民生委員・児童委員 **困窮家庭：19.6%** > 一般家庭：5.4%

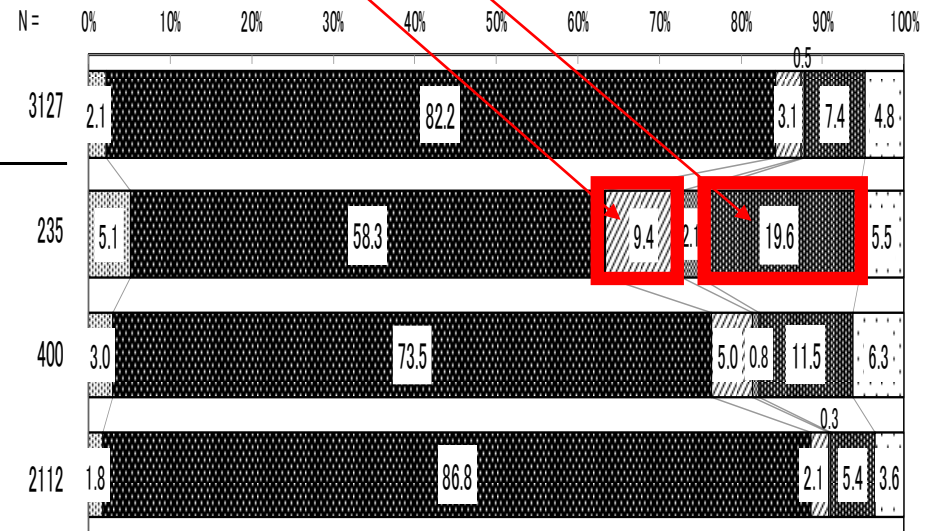
H問35公的機関へ相談 ①市役所・町村役場の窓口(%)

- 相談したことがある
- 相談したいと思ったことがなかった
- 相談したかったが、抵抗感があった
- 相談時間や場所などが使いづらかった
- 相談する窓口や方法がわからなかった
- 無回答



H問35公的機関へ相談 ④民生委員・児童委員(%)

- 相談したことがある
- 相談したいと思ったことがなかった
- 相談したかったが、抵抗感があった
- 相談時間や場所などが使いづらかった
- 相談する窓口や方法がわからなかった
- 無回答

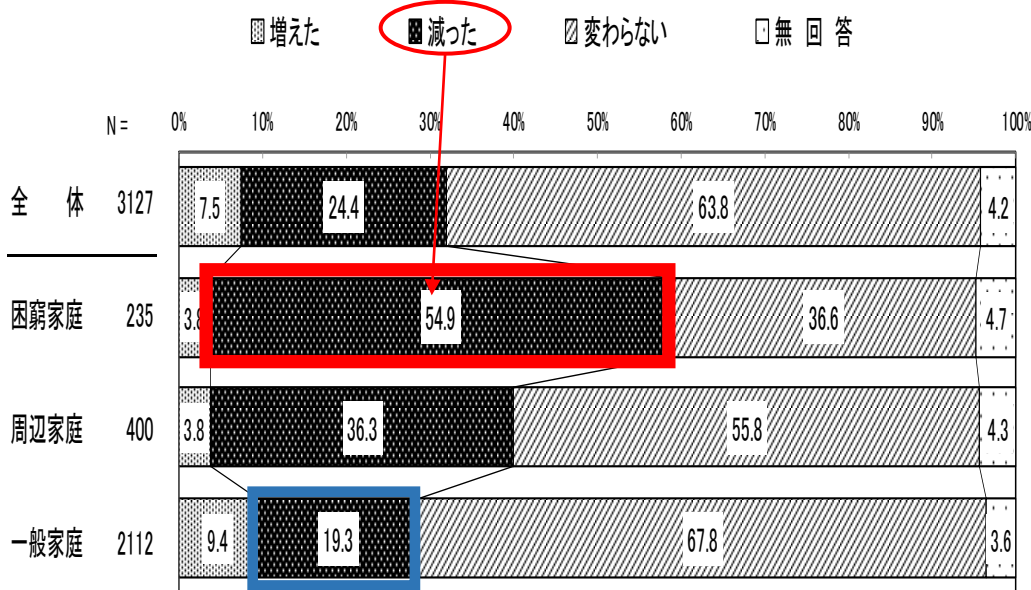


☆ 新型コロナウイルス感染症の影響

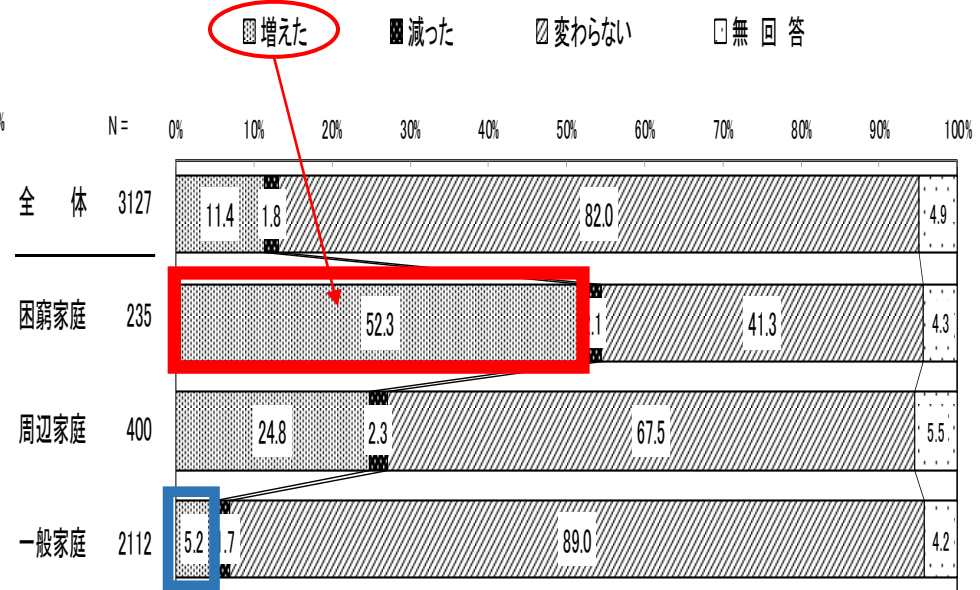
[新型コロナの影響（保護者・家庭）]

- 新型コロナの拡大による「世帯全体の収入の変化」について、「減った」と回答した割合は困窮家庭の半数以上となっている。
 - ・減った **困窮家庭：54.9%** > **一般家庭：19.3%**
- 「生活に必要な支出の変化」「お金が足りなくて、必要な食料や衣服が買えないこと」「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について、「増えた」と回答した割合は、一般家庭に比べて困窮家庭のほうが多い。
 - ・生活に必要な支出の変化 **困窮家庭：69.8%** > **一般家庭：43.1%**
 - ・お金が足りなくて、必要な食料や衣服が買えないこと **困窮家庭：52.3%** > **一般家庭：5.2%**
 - ・イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと **困窮家庭：56.2%** > **一般家庭：28.0%**

H問37感染症による変化 ①世帯全体の収入の変化[%]



H問37感染症による変化 ③食料や衣類が買えない[%]

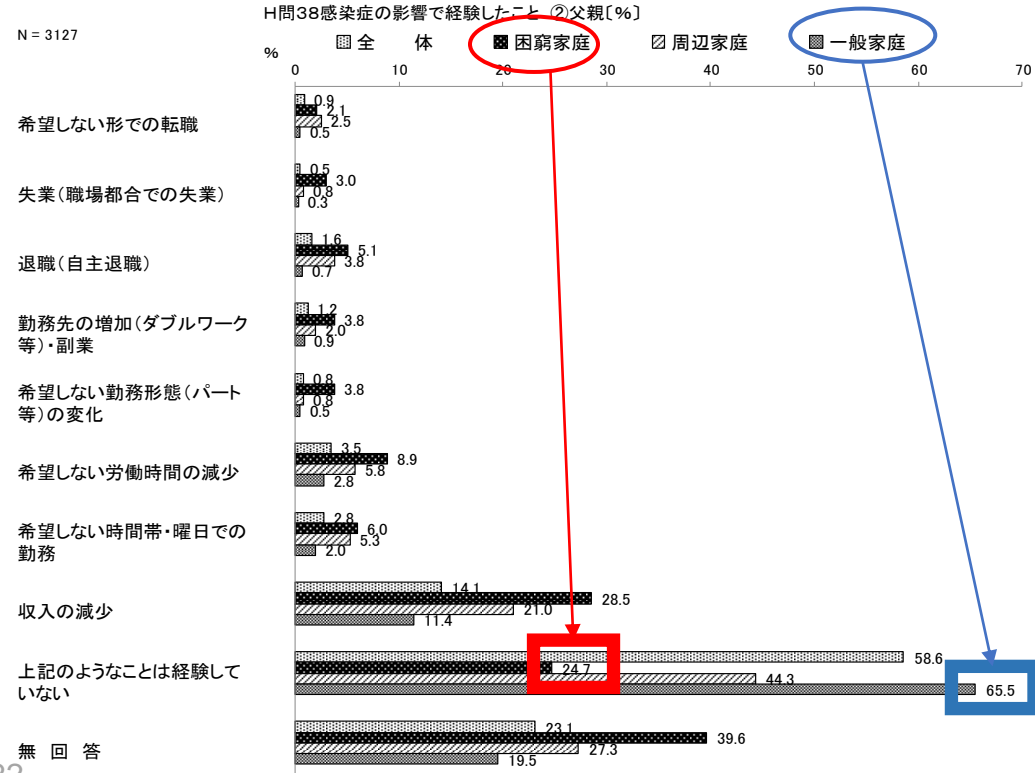
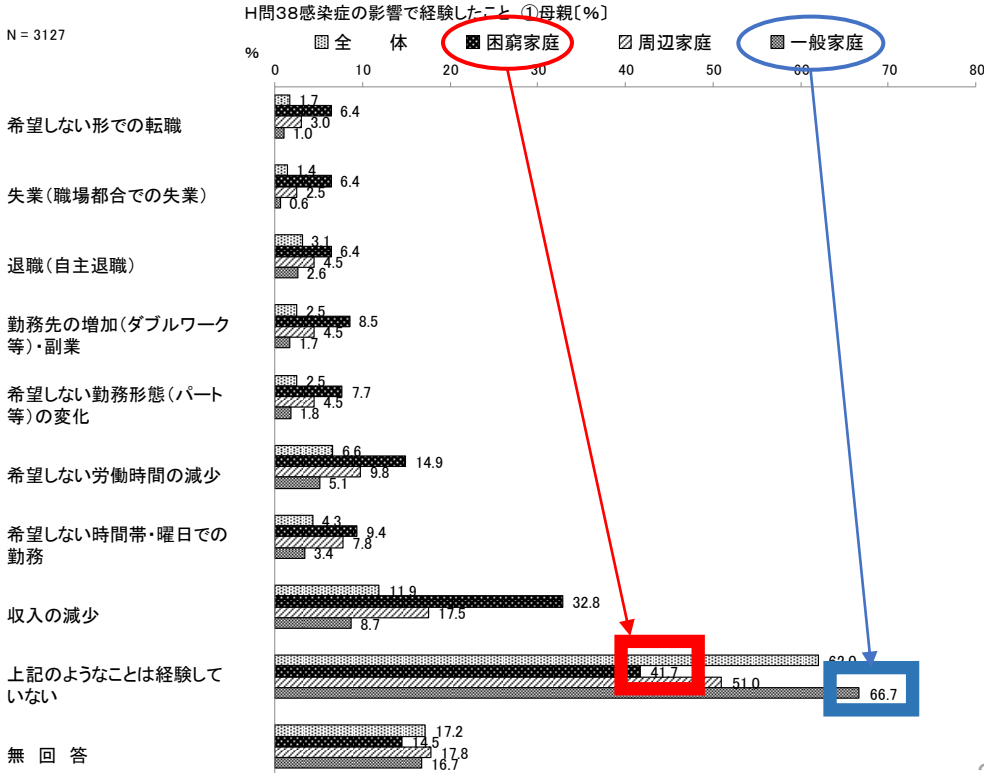




[新型コロナの影響（保護者・就労状況）]

- 新型コロナの拡大による「就業への影響」について、母親・父親ともに一般家庭に比べて困窮家庭のほうが多数の項目で影響を受けたと回答している。
- 母親・父親ともに「収入の減少」が最も多く、次いで「希望しない労働時間の減少」が回答されている。

・収入の減少（母親）	困窮家庭：32.8%	>	一般家庭：8.7%
・収入の減少（父親）	困窮家庭：28.5%	>	一般家庭：11.4%
・希望しない労働時間の減少（母親）	困窮家庭：14.9%	>	一般家庭：5.1%
・希望しない労働時間の減少（父親）	困窮家庭：8.9%	>	一般家庭：2.8%





[新型コロナの影響 (子ども)]

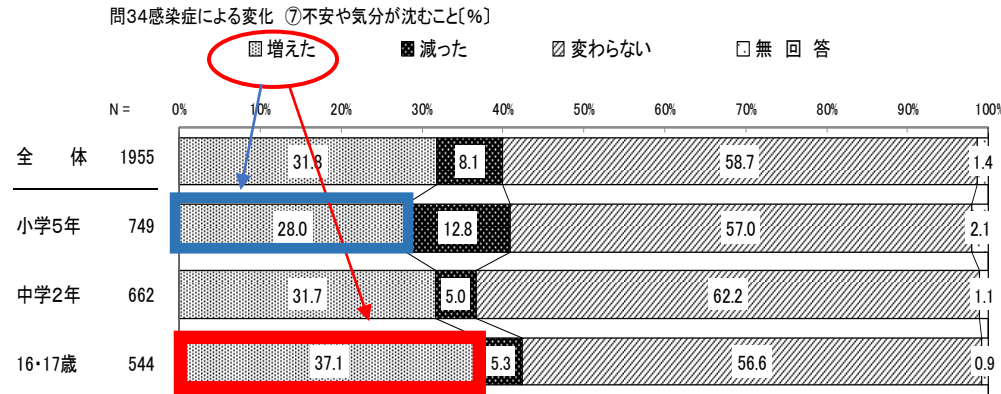
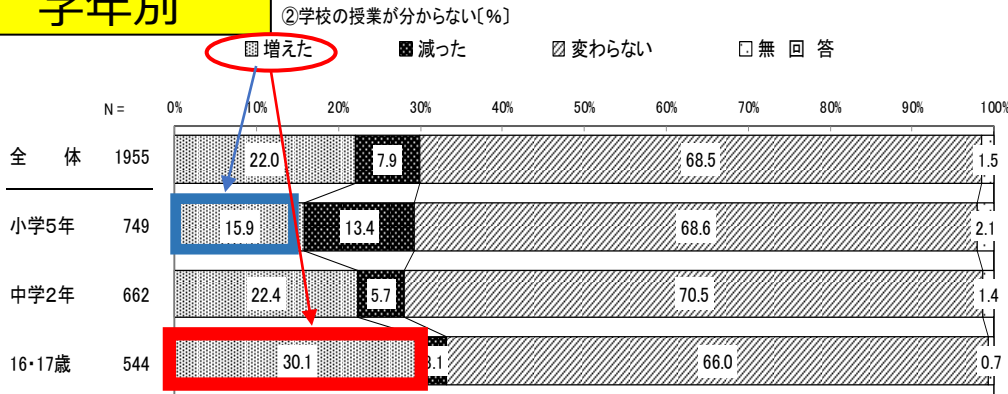
○ 「学校の授業が分からないと感じること」「不安や気分が沈むこと」について、「増えた」と回答した割合は学年が上がるにつれて、多くなっている。

また困窮度別では、一般家庭に比べて困窮家庭の方が多く回答されている。

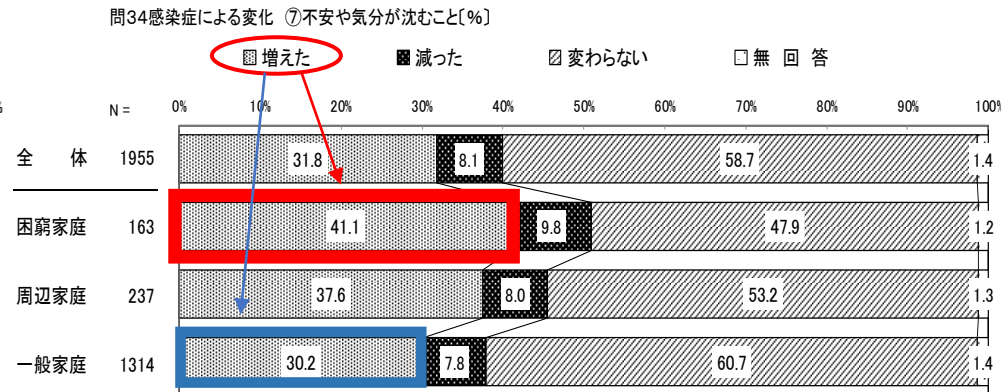
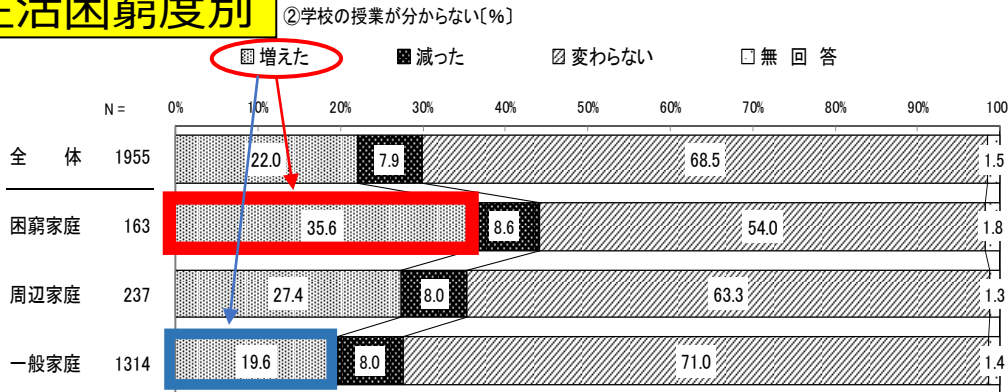
- ・ 学校の授業が分からないと感じることが増えた
- ・ 不安や気分が沈むことが増えた

困窮家庭 : 35.6% > 一般家庭 : 19.6%
困窮家庭 : 41.1% > 一般家庭 : 30.2%

学年別



生活困窮度別



☆ 調査結果の詳細

調査結果の詳細（報告書）は長野県公式ホームページでもご覧いただけます。

○ 長野県公式ホームページ

<https://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/kyoiku/kodomo/shisaku/04tyousa.html>

または

長野県 生活実態調査

検索

